

■災害とは？

災害には、地震や風水害などの自然災害と、テロや事故などの人為的な原因による災害があります。

中でも、地震は予測ができず突然やってきて、わずかな時間で甚大な被害が生じることから、最も恐れられている災害です。これらの災害から、被害を最小限に抑える（減災）ため、災害時の基本計画となる、鱒ヶ沢町地域防災計画や鱒ヶ沢町国民保護計画などを策定するなど、様々な災害応急対策をとっています。

▼水 害

梅雨の時期には、長く降り続く雨や集中豪雨などによる浸水被害が心配されます。

雨の降り方の目安 1時間降雨量(ミリ)	人への影響	屋外の様子	災害発生状況
10以上20未満	地面からの跳ね返りで足元が濡れる。	地面一面に水溜りができる。	この程度の雨でも、間断降り続く場合は注意が必要。
20以上30未満	傘をさしていても濡れる。		側溝や下水、小さな川があふれ、小規模ながけ崩れが起こる。
30以上50未満		道路が川のようになる。	山崩れ、がけ崩れがおこりやすくなり、危険地域では避難の準備が必要。
50以上80未満	傘はまったく役に立たない。	水しぶきで辺り一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	土砂災害が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80以上			大雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

◇床上浸水

住家の床より上に浸水したものや土砂などの堆積により一時的に住むことができなくなった状態。

◇床下浸水

床上浸水に至らない程度に浸水した状態

▼土砂災害

崖崩れ、地すべり等の土砂災害は、一瞬のうちに大量の土砂が崩れ落ちるため、破壊力が極めて大きく、様々な災害のうちでも、最も危険なものといえます。

日ごろから崖地に対しては十分な注意が必要です。

【崖崩れの起きやすい場所】

◇傾斜 30 度以上

崖の角度が 30 度を超えると崖崩れの危険が増します。特に 40 度から 50 度のあたりでは、崖崩れが多発しています。

◇高さ 5 メートル以上

家の屋根より高い（5 メートル以上）崖は、崩れたときに家を押しつぶすほどの大きな被害を出し、大変危険です。

◇傾斜の異常

崖や山腹に地割れがあったり、湧き水の濁りがあるところは注意が必要です。特に普段、水のないところから水が噴き出したり、石がパラパラと落ち始めたときは危険です。

◇その他危険な崖の状態

- ・ 崖に凹凸がある場合
- ・ 崖の上部が覆いかぶさっている場合
- ・ 湧き水があったり、山腹に水が集まりやすいところ
- ・ 擁壁や石垣に割れ目のある場合
- ・ 近くで崩れたことのある場合
- ・ 崖の裾を切り込んだようなところ
- ・ 表土が厚く、軟弱な崖
- ・ 岩が風化して、土のようにボロボロになっている崖
- ・ 硬い岩でも割れ目の多い崖
- ・ シラスや真砂土など水に弱い崖
- ・ 崖の上部の排水が完備していない崖

【崖崩れが起きやすい気象条件】

崖崩れは、地形や地質などの条件はもちろんですが、台風や集中豪雨によって起こりやすくなります。

◇雨量が 100 ミリを超えると…

雨が降り始めてから 100 ミリを越えると、途端に崖崩れが起こりやすくなります。崖崩れの 8 割は雨量が 100 ミリを超えたときに起こっています。

◇雨量が1時間に20ミリを超えると…

時間雨量が20ミリ以上の強い雨になると危険です。雨のために地割れができたり、地表が流されるなど崖崩れの危険性が増します。

【崖地の予防策】

- ・危険な部分はビニールシートなどで覆い、雨水のしみ込みを防ぐ
- ・雨水を崖に流さないように水路を作る
- ・水路はゴミがつかまらないように掃除する
- ・落ちそうな岩や土のかたまりは取り除く
- ・壊れた石垣などは修理や補強をする

【地すべりが起こる前によく現れる現象】

- ・地下に住む小動物が家屋内にはい上がる
- ・井戸水、湧き水、ため池等の水が急に枯れる
- ・水田の水保ちが悪くなる
- ・上方の急傾斜地面に亀裂が生じる
- ・地鳴り、家鳴りが聞こえる
- ・山肌の岩石がボロボロ崩れ落ちる

異常の状態になれば地すべりは近いと考えなくてはなりません。

もし、崖崩れや地すべりが生じたときは、土砂の流れる方向と直角の方向で安全なところに避難する必要があります。

▼地 震

気象庁震度階級～日本で使用されている地震の揺れの大きさを表す震度階級で通称「震度」という。

◇震度階級と計測震度の関係表

震度	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7
震度計 の計測 震度	～ 0.4	0.5 ～ 1.4	1.5 ～ 2.4	2.5 ～ 3.4	3.5 ～ 4.4	4.5 ～ 4.9	5.0 ～ 5.4	5.5 ～ 5.9	6.0 ～ 6.4	6.5 ～

計測震度の値は気象庁の「震度の算出方法」の値を用いている。

▼気象情報、予防・対応策

梅雨の時期には特に様々な気象情報が発表されます。これらの情報を上手に活用することが重要です。

◇気象情報の例

気象情報の種類	情報文の内容例
低気圧に関する全般的気象情報	発達した低気圧の通過に伴い、明日から明後日にかけて東日本の日本海側で雨風が強まる見込み。
大雨注意報	明日のあさまでに1時間に20ミリの強い雨が降り、総雨量は130ミリに達する見込み。
大雨警報	今夜にかけて1時簡に60ミリの非常に激しい雨の降る恐れ。厳重に注意。
記録的短時間大雨警報	18時10分、青森県で記録的短時間大雨。 鱒ヶ沢町で90ミリ。

***** **日ごろから備えましょう!** *****

◇避難所や避難経路を確認しておく

自分の地区の避難所はどこなのか、安全に行くためにはどう行けばよいのかを確認しておきましょう。

◇正確な情報収集と自主的避難

ラジオ・テレビで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

◇避難の呼びかけに注意を

危険が迫ったときは、役場や消防団から避難の呼びかけをします。呼びかけが聞こえたら内容を確認しましょう。

◇必要な一人分の飲料水の量や食糧はどの程度？

1日約3リットルの飲料水と、3日分の食糧を用意しましょう。

◇避難用品の置き場所は

枕元や身近なところに置いておくのがいいようです。しかし持ち出せない場合も想定できますのでベランダや外の物置などに置くのも良いかと思えます。

◇家族との連絡が取れない場合の方法は？

災害時に臨時伝言ダイヤルが開設されますので、それを事前に家族で利用する方法を確認してください。